

長野における小国際会議概要 2nd CBNM

開催責任者	所属・職名 信州大学エキゾチック・ナノカーボンの創成と応用プロジェクト拠点・特別特任教授 氏 名 金子 克 美		
会議名	The Second Symposium on Future Challenges for Carbon-Based Nanoporous Materials : Adsorption and Energy, 第二回炭素系ナノ細孔物質についての将来への挑戦：吸着とエネルギー		
主催団体等名	CBNM-2 実行委員会		
連絡先	TEL : 026-269-5736	FAX : 026-269-5737	Email : encs_jim@shinshu-u.ac.jp
開催期間	平成 22 年 9 月 23 日～平成 22 年 9 月 25 日 (3 日間)		
開催場所	信州大学 若里キャンパス (SASTec) : 長野市若里 4-17-1		
会議の意義と 概要	<p>地球温暖化のための基礎科学の振興が叫ばれている。なかでも二酸化炭素の吸着貯蔵、分離などに有効なナノ細孔性固体の科学が世界的に活発に研究されている。本研究会ではナノチューブの開発、ナノ細孔性カーボンの特性と物性研究で世界を先導している信州大学で、J S T 地域卓越研究者結集プログラムの推進に合わせて、電気エネルギー貯蔵などにも有望な炭素系ナノ細孔体に絞って、世界の専門家を集約して、今後展開できるような科学的なシーズを見出し、それを発展させる方向の研究について海外から約 10 名の著名研究者を結集し、かつ国内の各分野トップの研究者の参画を得てシンポジウムを開催する。全参加者は 60 名程度である。</p> <p>本シンポジウムにおいて、我が国からはエネルギー科学、触媒科学の分野から、海外からはナノマテリアル、クリーンエネルギーデバイス、環境分子工学、分子吸着、計算機シミュレーションなど、世界の著名大学から実に幅広い分野の先端科学者が招待講演を行う。約 20 件の一般発表はポスター形式と活発な若手によるショートな口頭発表を実施する。本シンポジウムは学際的でありながら的を絞ったものであり、小規模ながら会議の質を高めんとする試みのもとに行われる。</p>		
招待講演者例	<p>岩澤康弘教授(電通大：日本化学会会長)坂本茂樹上席研究員(JOGME)直井勝彦教授(東京農工大)L. Radovic 教授 (Penn State 大学、USA) J. J. Qui 教授(大連工科大学、中国) C. Lastoskie 教授 (Michigan 大学、USA) F. Rodriguez-Reinozo 教授 (Alicante 大学、スペイン) D. D. Do 教授 (Brisbane 大学、オーストラリア) X. S. Zhao 教授 (シンガポール国立大学、シンガポール) 遠藤守信教授 (信州大学、カーボン研究所所長) M. Terrones 教授 (信州大学、ENCs 拠点) など国内外 7 ケ国から 11 名</p>		